

患者さんから学ぶカンファレンス

パニック障害の経過中に心筋梗塞を合併した症例

中尾 睦宏

帝京大学医学部心療内科

症例は 39 歳男性。会社員。3 年前に息苦しさや動悸を訴え、当院救急外来に夜間受診した。当初は過換気症候群が疑われたが、検査を進める間に症状が落ち着きそのまま帰宅となった。3 ヶ月後に同じ症状を訴え救急受診となったため、当科外来へ紹介受診された。動脈血ガス分析の結果からは過換気症候群は否定的で、「息がうまく整わない」、「体が浮く感じ」、「胃が重い」、「発作の時は死ぬのではないかと思った」といった訴えなどから「パニック障害（空間恐怖を伴わない型）」と診断された。当初は選択的セロトニン再取り込み阻害薬 SSRI を処方したが副作用などのため服薬継続できず、四環系抗うつ薬とベンゾジアゼピン系抗不安薬を併用することで症状をコントロールしていた。ところが今年になって自宅で急に胸痛を訴えた。妻からは「またいつもの発作でしょ。」と最初は相手にされなかったが、その苦しみ方が尋常でなく自宅近くの市中総合病院を受診したところ、「急性心筋梗塞（右冠動脈閉塞）」と診断された。そのまま ICU 入院し、シャント挿入と服薬加療を経て退院となった。パニック障害と診断されたとしても、その後の活動度の低下や不規則な食生活などにより心疾患イベントが新たに発症することは起こりえる。我々医療従事者としては決して油断をしてはならない。